

# を結集総へ会集労働者鉄国

日刊 動労千葉

84. 11. 8

No. 1787

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

## 三番、性根をすえた総反撃へ

全組合員のみなさん。  
国鉄をめぐる情勢はきわめて激烈な正念場に入りました。すでにあきらかなように「60・3ダイ改」を突破口に再建監理委員会が「分割・民営化」の「具体案」なるものを予定より早く来春早々にも提示することを公言し「分割・民営化」のために一刻も早く一〇万人一五万人の生首切り攻撃をかけようとしていることです。  
われわれは、こうした絶対に許すことのできない反動中曾根・再建監理委・国鉄当局による反動攻勢に断固反撃を加え、粉碎しなくてはなりません。

大量首切りへの道を許すな

一九四九年「定員法」強行による十万人首切りをはるかにうわまわる現在の攻撃は、三十五年を経たいま決して偶然にできていたのではありません。

政府・国鉄当局の反労働者の営利優先政策の帰結として生みだされた膨大な「赤字」を口実とした攻撃は「三人に一人」どころか「二人に一人」の首切り攻撃へとエスカレートさえ狙っています。そして一九四九年の国鉄一〇万人首切りを突破口とする全産業にわたる戦闘的労働運動の解体と右翼的再編によって、翌一九五〇年六月朝鮮侵略戦争に突入した反動的歴史を再びくりかえそうとしているのです。「分割・民営化」は国鉄労働運動の解体攻撃と形を変えてはいますが、その反動的の本質においてこの中曾根内閣は、定員法当時の吉田内閣よりもはるかに暴虐非道の超反動内閣であることは明白です。それは、今日の支配体制が大変などんづまりの危機に追いつめられているからに他なりません。

われわれは、かかる攻撃を断固粉碎するために、ここ一番、性根をすえて闘わなければなりません。

階級的責務をかけて

われわれ動労千葉を先頭とする国鉄労働者の闘いがいまほど問われているときはありません。こうした大上段にふりかざした反動中曾根の攻撃を、闘いもせず屈服するならば、日本労働運動の「死」であると言っても過言ではないのです。  
反安保、反戦闘争、反合・反マル生闘争を、血を流しながらたたかいてきた幾多の先輩・仲間たちの戦闘的歴史を断固として継承発展させ、

今こそ性根をすえて闘わなくてはなりません。それが階級的責務と真に労働者・人民を守る道だからです。

勝利の展望は闘いによって

こうした「60・3ダイ改」を突破口とした全面攻撃が、十一月中旬、具体的にかけられようとしています。

まさにこの時、われわれは満身に怒りをこめ、「11・10集会」に決起する。この「11・10」の圧倒的成功をかちとつてわれわれの反撃の第一歩としようではありませんか。いま陸統と動労千葉と共に闘う戦闘的国鉄労働者が「11・10」に向けて結集しつづつあります。

すべての組合員の皆さん。「3・25」「10・10」で発揮した労働者魂をもって「11・10」を国鉄労働運動解体攻撃への怒りの大反撃とすべく全力をあげて結集しよう。そして勝利をかちとろう。

11・10 国鉄労働者集会  
とき・11月10日（土）17時30分～  
ところ・千葉県教育会館大ホール（千葉地裁前）  
主催・国鉄千葉動力車労働組合  
内容・\*連帯の挨拶 \*基調報告—動労千葉  
\*決意表明—各地方の国鉄労働者



「10・10三里塚」国労共闘—動労千葉の合同決起集会